

計画事業番号	00684	事務事業名	生活バス路線確保対策事業	担当部署	企画財政部企画課	電話	688
--------	-------	-------	--------------	------	----------	----	-----

## 【基本情報】

事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	根拠法令等	北広島市生活バス路線維持補助金交付要綱・北広島市生活バス路線維持補助金事務取扱要領				
事務事業開始年度	平成24年度	個別計画等					
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

## 【事業概要】

1 総合計画体系	(第5章)	快適な生活環境のまち
	(第4節)	交通の充実
	(施策1)	公共交通の充実
2 対象	乗合バス事業者	
3 目的と内容	<p>市民の日常生活に不可欠な生活バス路線を確保・維持し、市民生活の利便を図るため、市内完結バス路線の運行経費の一部を乗合バス事業者へ補助する。</p> <p>&lt;補助対象路線&gt; 国庫補助・道単補助の対象路線以外で、かつ複数市町村にまたがらない市内完結路線</p> <p>&lt;補助対象期間&gt; 補助金の交付を受けようとする会計年度の前年度の3月31日を末日とする1年間</p> <p>&lt;補助対象経費&gt; 経常費用と経常収益の差額(赤字額) 【前回推進計画からの変更】 補助金限度額の改正</p>	
4 実施内容 (手段)	27年度まで	乗合バス事業者の市内不採算路線の運行欠損額の一部を補助金として交付し、市民の日常生活に不可欠な生活バス路線を維持・確保し、市民生活の利便性を図る。
	28年度	昨年度と同様であるが、運航欠損額への補填の仕組みは、路線の維持・確保には効果はあるものの、バス利用者の増加にはなかなか結びつかない。バス事業者や市民と情報交換を実施し、バス利用者の増加に向けた検討を継続して進めていく。

## 【事業の計画・実績】

平成27年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度
計画	実績	計画	計画	計画
市民生活に不可欠な生活バス路線を確保・維持するため、乗合バス事業者の市内不採算路線の運行欠損額の一部を補助金として交付する。	運行欠損額 24,163千円 補助金 4,000千円	市民生活に不可欠な生活バス路線を確保・維持するため、乗合バス事業者の市内不採算路線の運行欠損額の一部を補助金として交付する。	市民生活に不可欠な生活バス路線を確保・維持するため、乗合バス事業者の市内不採算路線の運行欠損額の一部を補助金として交付する。	《事業の見直し》

## 【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成29年度に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	
1次評価	現状継続	生活バス路線の維持・確保に向けて、事業者の大幅な減便等を回避するための事業であるが、バス利用者の減少に伴い運行赤字額が増えている現状からも、利用者の増加に向けた取組をバス事業者と連携し推進していく。バス路線を確保するためには、地域で路線を守るという意識が重要であることから、市民に対する意識啓発にも取り組む。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
決算額、当初予算額又は推進計画額			4,000	4,062	4,000	0
事業額	直接事業費	国支出金	0	0	0	0
		道支出金	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0
		その他特財	0	0	0	0
		一般財源	4,000	4,062	4,000	0
		① 合計	4,000	4,062	4,000	0
	人件費	② 人数(年間)	0.10	0.10	0.10	0.10
		③ 1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
		④ =②×③	900	900	900	900
		総事業費①+④	4,900	4,962	4,900	900

【評価指標】

指標名		単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
活動指標	①補助金額	目標値	4,000	4,000	4,000	
		実績値	4,000			
	②	目標値				
		実績値				
	③	目標値				
		実績値				
	④	目標値				
		実績値				
成果指標	① 生活バス路線の維持路線数	目標値	9	9	9	9
		実績値	9			
	② 生活バス路線の便数維持数	目標値	131	128	128	128
		実績値	131			
	③	目標値				
		実績値				
【指標の定義(算式等)】		実績値				

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	通勤・通学者、高齢者など市民にとって公共交通機関である生活バス路線は重要な移動手段であることから、これらの確保・維持に向けた対策は、市が関与すべき事業として妥当である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	補助金を交付することにより事業者の大幅な減便等を防ぎ、生活バス路線の安定した供給に向けた有効な手段となっている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	運行欠損額の一部補填は、減便等の防止に直結することから、実効性の高い方法であるが、生活バス路線の確保を含めた地域公共交通のあり方について継続的な検討が必要である。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	生活バス路線を維持するうえで有効な手段である。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input type="checkbox"/> 法律の義務付けあり	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	------------------------------------	---

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。	<input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	---	---